

第3講 辞書には単語のすべてがある・・・意味・発音・spellの統合

さて、いよいよ辞書の登場です。この段階にはあまり難しい理屈は要りません。ポイントを押さえて、ひたすらに辞書を引いてもらいます。辞書を引く、という行為そのものが英語の力をどんどんと伸ばしていきます。

1 単語はひたすら覚えるしかない・・・

英語学習の基本は単語習得です。でも、そこでちょっと考えてみてください。単語がわかる・覚える、というのはどういうことでしょうか。私は以下の図式を用いて説明します。

音(または文字) 集まって 単語 集まって 文 集まって 談話・文章

言語というのはどういう仕組みになっているかという、最小の単位は一つ一つの音です。それがいくつか集まって単語を形成します。これは日本語でも英語でも同じ。「イヌ」はイという音とヌという音で構成されています。dとoとgでdogです。

ところが、どうしてイとヌの組み合わせが、あの4本足で動き、わたしを見ると吠えて怖がらせる動物の名前なのか。そして、その動物はどうして英語ではdogでドイツ語ではHundなのか、これはいくら考えても答えが出ない。一応「語源論」というのがあって、ウンチクのある人はいろいろ説明しますが、どんどんとさかのぼると、最後は説明できないのです。そこで、言語学では、単語のもつこのような性質に「恣意性」という名前をつけて、言語学では取り扱わない、ということにしてしまいました。恣意、というのは勝手気ままという意味で、各言語でいろいろな呼び方をするのにはルールがない、でたためということです。だから単語というのは覚えていくしかない、というのが原則です。

20 2 単語を覚えるということ

では単語を覚える、というのは何を覚えればよいのでしょうか。「ひたすら書きまくる勉強」では身に付かないものなのです。それは、スペルを書く練習をしてるだけで、単語の「意味」も「読み」も頭に入っていないからです。単語を覚える、理解するというからには、以下の3つがきちんと理解され身につかなくてはなりません。

スペル(spell: アルファベットでどう綴るか) 読み(綴りに合わせて読める)
意味(英語の単語を日本語にするとどうなるか)

一つの英単語に一つの意味とは限りません。例えば、paperは「紙」と「新聞」という意味があります。二つ以上の単語がまとまって、意味を表すことも多いですね。getは「手に入れる」ですが、get upは「起きる」になります。このような表現(イディオムとか連語とか言われます)も単語と同じように覚えていく必要があります。

ですから、学校でよく実施される単語テストというのは大体次の3パターンです。

日本語 英語のスペル 英語のスペル 日本語の意味
読みを書かせたり、強く読むところを指摘させる